

マナーのツボ

握手を求められたら



米国に住んでいたころ、初めて行く病院の診察室から担当医が笑顔であいさつしてきました。不慣れな私は英語だけで精いっぱい。握手の求めを完全に無視してしまい、差し出した手の置き場に困った担当医はとっさに頭をかいて苦笑いしていました。

握手は信頼関係を確かめ合う動作で、様々な場面で行われます。求められたら、ためらわず右手を出しましょう。座っていたらすぐに立ち上がるのがマナー。日本では同時にお辞儀をしましょう。相手が多いのですが、お辞儀はせず相手の目を見て手を出します。反対側の手をポケットに入れたり、腰に

立ち上がり、目を見て握る

置いたりするのは高圧的と受け取られかねないのでやめましょう。力や時間の長さにも注意が必要です。手の感触で信頼感や感情を推し量るからです。指先だけの握手は弱々しい印象を与えます。親指と人さし指の間がお互い触れたところで強く握り、2、3回上下させるのが基本です。

パーティーの席で手が冷えていたり水滴が付いていたりすると相手を驚かせます。手に汗をかきやすい人も事前に拭いておきましょう。ただし握手のあと、すぐに手を拭くのはNGです。

以前は女性が手を差し出すままで、男性は女性に握手を求めないことがエチケットでした。近年はどちらからでもよしとされています。宗教上の理由で男性と女性は握手をせず、会釈のみのケースもあるので知っておきましょう。

(ビジネスマナー講師

美月 あきこ)